

5/3,AB/1

DIALOG(R)File 351:Derwent WPI

(c) 2007 The Thomson Corporation. All rts. reserv.

0010694514

WPI ACC NO: 2001-304530/

XRAM Acc No: C2001-094117

**Oily solid cosmetics e.g. lipstick, comprise alpha-olefin oligomer having specific viscosity and weight average molecular weight and hydrocarbon wax having preset melting point**

Patent Assignee: KOSE KK (KOSE-N)

Inventor: IIDA M; SUZUKI T

1 patents, 1 countries

**Patent Family**

Patent			Application			
Number	Kind	Date	Number	Kind	Date	Update
JP 2001072537	A	20010321	JP 1999250387	A	19990903	200132 B

Priority Applications (no., kind, date): JP 1999250387 A 19990903

**Patent Details**

Number	Kind	Lan	Pg	Dwg	Filing Notes
JP 2001072537	A	JA	8	0	

**Alerting Abstract JP A**

NOVELTY - Oily solid cosmetics comprise component (a) which is alpha-olefin oligomer having viscosity of 1000-40000 cp at 40(deg)C and weight average molecular weight of 5000-60000 and component (b) which is hydrocarbon wax having melting point of 70-110(deg)C.

USE - e.g. lipstick which is obtained by heat melting polyethylene wax having melting point of 105(deg)C, ceresin wax having melting point of 83(deg)C, microcrystalline wax having melting point of 72(deg)C, 4 different alpha-olefin oligomers, polybutylene (polybutene 300R), liquid lanolin, cetyl isooctanoate and diisostearyl diisostearate, followed by adding red pigment 202, yellow pigment 4 aluminum lake and titanium oxide, mixing uniformly, degasifying obtained melt, filling in container and cooling. Also as foundation lipstick and eye shadow.

ADVANTAGE - The oily solid cosmetic of good quality provides high gloss, and has excellent form retentivity. The oily solid cosmetic eliminates sticky feel. The smell of raw material during usage of oily solid cosmetic, is prevented.

Basic Derwent Week: \*200132\*

(51) Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	テームト (参考)
A 6 1 K 7/00		A 6 1 K 7/00	K 4 C 0 8 3
			C
			L
7/025		7/025	
7/027		7/027	
審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 8 頁) 最終頁に続く			
(21) 出願番号	特願平11-250387	(71) 出願人	000145862
(22) 出願日	平成11年9月3日 (1999.9.3)		株式会社コーセー
			東京都中央区日本橋3丁目6番2号
		(72) 発明者	飯田 正美
			東京都北区栄町48番18号 株式会社コーセー
			一研究本部内
		(72) 発明者	鈴木 智樹
			東京都北区栄町48番18号 株式会社コーセー
			一研究本部内
		最終頁に続く	

(54) 【発明の名称】 油性固形化粧料

(57) 【要約】

【課題】べたつきが無く、高いつやを有し、形状保持性に優れ、しかも、原料臭が低減された油性固形化粧料を提供する。

【解決手段】成分 (a) 平均分子量5000～60000で、且つ40℃の粘度が1000～40000 c p s であるα-オレフィンオリゴマーと、成分 (b) 融点が70℃～110℃の炭化水素ワックスとを含有する油性固形化粧料。また、成分 (a) の含有量が1～70重量%である前記油性固形化粧料。更に、成分 (b) が、融点80℃～105℃のエチレンプロピレンコポリマーである前記油性固形化粧料。

#### 【特許請求の範囲】

【請求項1】 次の成分（a）～（b）；

（a）重量平均分子量が5000～60000で、且つ40℃における粘度値が1000cp～40000cpである $\alpha$ -オレフィンオリゴマー

（b）融点が70℃～110℃の炭化水素ワックスを含むことを特徴とする油性固形化粧料。

【請求項2】 成分（a）の含有量が1～70重量%であることを特徴とする請求項1記載の油性固形化粧料。

【請求項3】 成分（b）が、融点80℃～105℃のエチレンプロピレンコポリマーであることを特徴とする請求項1又は2記載の油性固形化粧料。

#### 【発明の詳細な説明】

##### 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は特定の $\alpha$ -オレフィンオリゴマーと、融点が70℃～110℃の炭化水素ワックスとを含む油性固形化粧料に関し、更に詳しくは、べたつきが無く、高いつやを有し、形状保持性に優れ、しかも、原料臭が低減された油性固形化粧料に関するものである。

##### 【0002】

【従来の技術】従来、油性固形化粧料の液体油としては炭化水素類、エステル類、高級アルコール類、シリコン油類等が用いられている。また、ワックスとしては、ミツロウ、カルナウバロウ等の天然ワックス、パラフィンワックス等の炭化水素ワックス等が用いられている。これらの成分は、使用性、成形性を考慮し、適宜選択されるが、高いつやを必要とする場合は、ポリブテン、ポリイソブチレン等の高重合度炭化水素油を多量に配合することが一般的である。更に、成形性を向上させるために、炭化水素ワックスを用いることが有効であることが多い。

##### 【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、高重合度炭化水素油を油性固形化粧料に配合すると、つやは向上するが、多量に配合した場合は粘性が非常に高いため、べたつきがひどく、使用性に劣るものとなった。更に、油性固形化粧料は、製造時に高温条件下に曝されるため、ポリブテン、ポリイソブチレン等の高重合度炭化水素油は、重合されていない低分子量のブチレンの臭いが増し、製品の品質を落とす場合があった。また更に、高重合度炭化水素油は炭化水素ワックスとの相溶性が良く、炭化水素ワックスが高重合度炭化水素油に溶解してしまうため、ワックスとしての固さが出ないため、成形性に劣る場合があり、成形性を向上させるために、より多くの炭化水素ワックスを必要とし、結果として高いつやを得ることが困難であった。そこで、べたつきが無く、高いつやを有し、形状保持性に優れ、しかも、原料臭が低減された油性固形化粧料の開発が望まれていた。

##### 【0004】

【課題を解決する為の手段】かかる実情において、本発明者らは、鋭意研究した結果、特定の $\alpha$ -オレフィンオリゴマーと、融点が70℃～110℃の炭化水素ワックスとを組み合わせる油性固形化粧料に配合した結果、べたつきが無く、高いつやを有し、形状保持性に優れ、しかも、原料臭が低減されるという優れた品質を有する油性固形化粧料が得られることを見出し、本発明を完成するに至った。

【0005】すなわち本発明は、次の成分（a）～（b）；

（a）重量平均分子量が5000～60000で、且つ40℃における粘度値が1000cp～40000cpである $\alpha$ -オレフィンオリゴマー

（b）融点が70℃～110℃の炭化水素ワックスを含むことを特徴とする油性固形化粧料に関するものである。また、成分（a）の含有量が1～70重量%である前記油性固形化粧料、更に、成分（b）が、融点80℃～105℃のエチレンプロピレンコポリマーである前記油性固形化粧料に関するものである。

##### 【0006】

【発明の実施の形態】以下、本発明を詳細に説明する。本発明に用いられる成分（a）の $\alpha$ -オレフィンオリゴマーは、べたつき感が無く、肌への密着性に優れた油剤であり、エチレンを重合して得られる炭素数4～24の直鎖脂肪族を重合し、その後、水素添加して得られる側鎖を有する炭化水素のうち、重量平均分子量が5000～60000でかつ40℃における粘度が1000cp～40000cpの $\alpha$ -オレフィンオリゴマーである。本発明の油性固形化粧料において、 $\alpha$ -オレフィンオリゴマーは、GPC法における重量平均分子量が、5000未満では、肌への密着性に劣り、均一な化粧膜を形成する特性に欠け、6000を超えると、べたつき感を生じるため好ましくない。また、40℃におけるB型回転粘度計の粘度値が1000cp未満であると、肌への密着性に劣り、均一な化粧膜を形成する特性に欠け、40000cpを超えると、べたつき感を生じるため好ましくない。また更に、本発明に用いられる特定の $\alpha$ -オレフィンオリゴマーは、ポリブテンやポリイソブチレンと比較して、加熱した時の原料臭が低いものであり、これを含む油性固形化粧料においても、原料臭が低減するものであり、低温と高温で粘度の差が少ないものである。このような特定の $\alpha$ -オレフィンオリゴマーは、市販品としてPureSyn100（重量平均分子量：約6700、40℃における粘度値：1000cp）、PureSyn150（重量平均分子量：約9200、40℃における粘度値：1320cp）、PureSyn300（重量平均分子量：約14000、40℃における粘度値：2780cp）、PureSyn1000（重量平均分子量：約31000、40℃における粘度値：9000cp）、PureSyn3000（重量平均分子量：約31000、40℃における粘度値：9000cp）、PureSyn3000（重量平均分子量：約31000、40℃における粘度値：9000cp）。

均分子量：約55000、40℃における粘度値：31750cp）（何れも、Mobil社製）等が挙げられる。

【0007】本発明の油性固形化粧料における、成分（a）の含有量は1～70重量%（以下、単に「%」と略す。）が好ましく、5～50%が特に好ましい。この範囲で用いると、より成形性に優れ、より高いつやを有する油性固形化粧料を得ることができる。

【0008】本発明に用いられる成分（b）は、油性固形化粧料の形状を保持するために用いられるものであり、融点が70～110℃の炭化水素ワックスである。具体的には、エチレンプロピレンコポリマー、ポリエチレンワックス、パラフィンワックス、セレシンワックス、フィッシュアトロブシェワックス、マイクロクリスタリンワックス、天然ワックスから炭化水素成分を精製したワックス等が挙げられ、これらを一種又は二種以上用いることができる。

【0009】成分（b）の中でも、エチレンプロピレンコポリマーが、成形性と高いつやを発現する等の本発明の効果がより向上するため、好ましい。前記エチレンプロピレンコポリマーは、主炭素数として35付近を有し、直鎖以外に分岐しているものも含まれる合成炭化水素ワックスであり、その融点は、特に85～100℃のものがより好ましい。また、その中でも分子量分布が約300～800の範囲内で平均分子量が500～750の範囲内にあるものが好ましい。このような、エチレンプロピレンコポリマーとしては、市販品として、ペトロライトEP-700（東洋ペトロライト株式会社）等が例示できる。

【0010】本発明の油性固形化粧料における、成分（b）の含有量は0.1～20%が好ましく、1～15%が特に好ましい。この範囲で用いると、安定で、より高いつやを有する油性固形化粧料を得ることができる。

【0011】本発明の油性固形化粧料には、上記成分以外の油剤を配合することができる。本発明において、更に油剤を配合することにより、エモリエント感を付与したり、硬さや塗布時の感触を調整することができる。ここで用いられる油剤としては、通常化粧料に用いられる油剤であれば特に限定されず、動物油、植物油、合成油等の起源及び、固形油、半固形油、液体油、揮発性油等の性状を問わず、炭化水素類、油脂類、ロウ類、硬化油類、エステル油類、脂肪酸類、高級アルコール類、シリコン油類、フッ素系油類、ラノリン誘導体類等の油剤が挙げられる。具体的には、流動パラフィン、スクワラン、ワセリン等の炭化水素類、オリーブ油、ヒマシ油、ホホバ油、ミンク油、マカデミアンナッツ油等の油脂類、ミツロウ、カルナウバワックス、キャンデリラワックス、ゲイロウ等のロウ類、セチルイソオクタネート、ミリスチン酸イソプロピル、パルミチン酸イソプロピル、ミリスチン酸オクチルドデシル、トリオクタノ酸グ

リセリル、ジイソステアリン酸ポリグリセリル、トリイソステアリン酸ジグリセリル、トリベヘン酸グリセリル、ロジン酸ペンタエリトリットエステル、ジオクタノ酸ネオペンチルグリコール、コレステロール脂肪酸エステル等のエステル類、ステアリン酸、ラウリン酸、ミリスチン酸、ベヘニン酸、イソステアリン酸、オレイン酸、12-ヒドロキシステアリン酸等の脂肪酸類、ステアリルアルコール、セチルアルコール、ラウリルアルコール、オレイルアルコール、イソステアリルアルコール、ベヘニルアルコール等の高級アルコール類、低重合度ジメチルポリシロキサン、高重合度ジメチルポリシロキサン、メチルフェニルポリシロキサン、デカメチルシクロペンタシロキサン、オクタメチルシクロテトラシロキサン、ポリエーテル変性ポリシロキサン、ポリオキシアルキレン・アルキルメチルポリシロキサン・メチルポリシロキサン共重合体、アルコキシ変性ポリシロキサン、架橋型オルガノポリシロキサン、フッ素変性ポリシロキサン等のシリコン類、パーフルオロデカン、パーフルオロオクタノール、パーフルオロポリエーテル等のフッ素系油剤類、ラノリン、酢酸ラノリン、ラノリン脂肪酸イソプロピル、ラノリンアルコール等のラノリン誘導体、デキストリン脂肪酸エステル、蔗糖脂肪酸エステル、デンプン脂肪酸エステル、12-ヒドロキシステアリン酸アルミニウム、ステアリン酸カルシウム等の油性ゲル化剤類等が挙げられ、これらを一種又は二種以上用いることができる。本発明の油性固形化粧料における、これら油剤の含有量は、概ね0.1～40%である。

【0012】本発明の油性固形化粧料は、アイクリーム、口紅、リップグロス、ファンデーション、ほほ紅、アイシャドウ等が挙げられ、その形態は半固形状、固形状、スティック状等の室温下で、流動しない形態である。

【0013】本発明の油性固形化粧料には、本発明の効果を損なわない範囲で、必要に応じて、粉体、界面活性剤、紫外線吸収剤、保湿剤、皮膜形成剤、褪色防止剤、酸化防止剤、消泡剤、美容成分、防腐剤、香料等を適宜配合することができる。

【0014】粉体は、着色剤、隠蔽剤、紫外線遮断剤、メーキャップ効果の付与剤として、通常化粧用粉体として用いられている粉体であれば、球状、板状、針状等の形状、煙霧状、微粒子、顔料級等の粒子径、多孔質、無孔質等の粒子構造等により特に限定されず、無機粉体類、光輝性粉体類、有機粉体類、色素粉体類、金属粉体類、複合粉体類等が挙げられる。具体的に例示すれば、酸化チタン、酸化亜鉛、酸化セリウム、硫酸バリウム等の白色無機顔料、酸化鉄、カーボンブラック、酸化クロム、水酸化クロム、紺青、群青等の有色無機顔料、タルク、白雲母、金雲母、紅雲母、黒雲母、合成雲母、絹雲母（セリサイト）、合成セリサイト、カオリン、炭化珪素、ベントナイト、スメクタイト、無水ケイ酸、酸化ア

ルミニウム、酸化マグネシウム、酸化ジルコニウム、酸化アンチモン、珪素、ケイ酸アルミニウム、メタケイ酸アルミニウムマグネシウム、ケイ酸カルシウム、ケイ酸バリウム、ケイ酸マグネシウム、炭酸カルシウム、炭酸マグネシウム、ヒドロキシアパタイト、窒化ホウ素等の白色体質粉体、酸化チタン被覆雲母、酸化チタン被覆オキシ塩化ビスマス、酸化鉄雲母チタン、紺青処理雲母チタン、カルミン処理雲母チタン、オキシ塩化ビスマス、魚鱗箔等の光輝性粉体、ポリアミド系樹脂、ポリエチレン系樹脂、ポリアクリル系樹脂、ポリエステル系樹脂、フッ素系樹脂、セルロース系樹脂、ポリスチレン系樹脂、スチレン-アクリル共重合樹脂等のコポリマー樹脂、ポリプロピレン系樹脂、シリコーン樹脂、ウレタン樹脂等の有機高分子樹脂粉体、ステアリン酸亜鉛、N-アシルリジン等の有機低分子性粉体、澱粉、シルク粉末、セルロース粉末等の天然有機粉体、赤色201号、赤色202号、赤色205号、赤色226号、赤色228号、橙色203号、橙色204号、青色404号、黄色401号等の有機顔料粉体、赤色3号、赤色104号、赤色106号、橙色205号、黄色4号、黄色5号、緑色3号、青色1号等のジルコニウム、バリウム又はアルミニウムレーキ等の有機顔料粉体あるいは更にアルミニウム粉、金粉、銀粉等の金属粉体、微粒子酸化チタン被覆雲母チタン、微粒子酸化亜鉛被覆雲母チタン、硫酸バリウム被覆雲母チタン、酸化チタン含有二酸化珪素、酸化亜鉛含有二酸化珪素等の複合粉体、等が挙げられ、これらを一種又は二種以上を用いることができる。尚、これら粉体は、フッ素系化合物、シリコーン系化合物、金属石鹸、レシチン、水素添加レシチン、コラーゲン、炭化水素、高級脂肪酸、高級アルコール、エステル、ワックス、ロウ、界面活性剤等の一種又は二種以上を用いて表面処理を施してあっても良い。本発明の油性固形化粧品における、粉体の含有量は、粉体の配合目的等により異なるが、概ね0.1~80%である。

【0015】界面活性剤は、粉体の分散剤、化粧持続性向上等の目的で配合されるものであり、通常化粧品に用いられている界面活性剤であれば、何れでも良く、非イオン性界面活性剤、アニオン性界面活性剤、カチオン性界面活性剤、両性界面活性剤等が挙げられる。非イオン界面活性剤としては、例えば、グリセリン脂肪酸エステル及びそのアルキレングリコール付加物、ポリグリセリン脂肪酸エステル及びそのアルキレングリコール付加物、プロピレングリコール脂肪酸エステル及びそのアルキレングリコール付加物、ソルビタン脂肪酸エステル及びそのアルキレングリコール付加物、ポリアルキレングリコール脂肪酸エステル、蔗糖脂肪酸エステル、ポリオキシアルキレンアルキルエーテル、グリセリンアルキルエーテル、ポリオキシエチレンアルキルフェニルエーテル、ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油、

ラノリンのアルキレングリコール付加物、ポリオキシアルキレンアルキル共変性シリコーン、ポリエーテル変性シリコーン等が挙げられ、これらを一種又は二種以上を用いることができる。アニオン界面活性剤としては、例えば、ステアリン酸、ラウリン酸のような脂肪酸の無機及び有機塩、アルキルベンゼン硫酸塩、アルキルスルホン酸塩、 $\alpha$ -オレフィンスルホン酸塩、ジアルキルスルホコハク酸塩、 $\alpha$ -スルホン化脂肪酸塩、アシルメチルタウリン塩、N-メチル-N-アルキルタウリン塩、ポリオキシエチレンアルキルエーテル硫酸塩、ポリオキシエチレンアルキルフェニルエーテル硫酸塩、アルキルリン酸塩、ポリオキシエチレンアルキルエーテルリン酸塩、ポリオキシエチレンアルキルフェニルエーテルリン酸塩、N-アシルアミノ酸塩、N-アシル-N-アルキルアミノ酸塩、 $\alpha$ -アルキル置換リンゴ酸塩、アルキルスルホコハク酸塩等が挙げられ、これらを一種又は二種以上を用いることができる。カチオン界面活性剤としては、例えば、アルキルアミン塩、ポリアミン及びアルカノールアミン脂肪酸誘導体、アルキル四級アンモニウム塩、環式四級アンモニウム塩等が挙げられ、これらを一種又は二種以上を用いることができる。両性界面活性剤としては、アミノ酸タイプやペプチンタイプのカルボン酸型、硫酸エステル型、スルホン酸型、リン酸エステル型のものがあり、人体に対して安全とされるものが使用できる。例えば、N, N-ジメチル-N-アルキル-N-カルボキシメチルアンモニウムペプチン、N, N-ジアルキルアミノアルキレンカルボン酸、N, N, N-トリアルキル-N-スルフォアルキレンアンモニウムペプチン、N, N-ジアルキル-N, N-ビス(ポリオキシエチレン硫酸)アンモニウムペプチン、2-アルキル-1-ヒドロキシエチル-1-カルボキシメチルイミダゾリニウムペプチン、レシチン等が挙げられ、これらを一種又は二種以上を用いることができる。尚、本発明の油性固形化粧品における、界面活性剤の含有量は、界面活性剤の配合目的により異なるが、概ね0.01~30%である。

【0016】紫外線吸収剤としては、例えばベンゾフェノン系、PABA系、ケイ皮酸系、サリチル酸系、4-tert-ブチル-4'-メトキシジベンゾイルメタン、オキシベンゾン等、保湿剤としては、例えばグリセリン、タンパク質、ムコ多糖、コラーゲン、エラスチン、セラチン等、酸化防止剤としては、例えば $\alpha$ -トコフェロール、アスコルビン酸等、美容成分としては、例えばビタミン類、消炎剤、生薬等、防腐剤としては、例えばパラオキシ安息香酸エステル、フェノキシエタノール、1, 3-ブチレングリコール等が挙げられる。

【0017】

【実施例】次に、実施例を挙げて本発明を更に説明するが、本発明はこれら実施例に限定されるものではない。

【0018】実施例1~5及び比較例1~2：口紅

表1に示す組成の口紅を下記製法により調製し、「べたつき感の無さ」、「高いつや感」、「原料臭の無さ」、「形状保持性」の各項目について以下に示す評価方法に

より評価し、結果を併せて表1に示した。

【0019】

【表1】

No.	成分	実施例					重量%	
		1	2	3	4	5	1	2
1	ポリエチレンワックス (注1)	1	5	5	5	5	5	5
2	セレンワックス (注2)	—	5	5	3	5	—	5
3	マイクロクリスタリンワックス (注3)	—	10	5	—	5	—	5
4	α-オレフィンオリゴマー (注4)	10	—	—	—	10	—	—
5	α-オレフィンオリゴマー (注5)	—	16	—	70	20	—	—
6	α-オレフィンオリゴマー (注6)	—	—	1	—	20	—	—
7	α-オレフィンオリゴマー (注7)	—	—	—	—	—	30	—
8	ポリブテン (注8)	—	—	—	—	—	—	30
9	液体ラノリン	10	10	10	10	10	10	10
10	イソオクタン酸セチル	10	10	10	—	10	10	10
11	ジイソステアリン酸ジイソステアリル	重量	重量	重量	重量	重量	重量	重量
12	赤色202号	3	3	3	3	3	3	3
13	黄色4号アルミニウムレーキ	5	5	5	5	5	5	5
14	酸化チタン	1	1	1	1	1	1	1
評価項目								
べたつき感の無さ		○	○	○	○	○	○	×
高いつや感		○	○	○	○	○	×	○
原料臭の無さ		○	○	○	○	○	○	×
形状保持性		○	○	○	○	○	×	△

注1：融点105℃

注2：融点83℃

注3：融点72℃

注4：PureSyn150 (Mobil社製)

注5：PureSyn1000 (Mobil社製)

注6：PureSyn3000 (Mobil社製)

注7：PureSyn6 (重量平均分子量：約550、40℃における粘度値：30cP)

(Mobil社製)

注8：ポリブテン300R (出光石油化学社製)

【0020】(製法)

A：成分(1)～(11)を加熱溶解する。

B：Aに成分(12)～(14)を加え、均一に混合分散する。

C：Bを溶解し、脱泡して容器に充填する。

D：Cを冷却して、口紅を得た。

【0021】評価方法：「べたつき感の無さ」、「高いつや感」、「原料臭の無さ」

実施例及び比較例の口紅を化粧品官能検査パネル20人に使用してもらい、以下の基準により評価した。

評価基準

評価結果：評点

非常に良い：6点

良い：5点

やや良い：4点

普通：3点

やや悪い：2点

悪い：1点

非常に悪い：0点

判定基準

全パネルの評点の平均点：判定

5.5点以上：◎

4点以上～5.5点未満：○

2.5点以上～4点未満：△

実施例6：リップグロス

(処方)

1. セレンワックス (融点90℃)

2. ショ糖脂肪酸エステル

(重量%)

3

2

2.5点未満：×

【0022】評価方法：「原料臭の無さ」

実施例及び比較例の口紅を40℃にて3ヶ月放置後、5℃保管品と比較して臭いを以下の基準により評価した。

判定基準：判定

変化無し：◎

僅かに変化有るが、許容内：○

僅かに変化有り、許容外：△

明らかに変化有る：×

【0023】評価方法：形状保持性

実施例及び比較例の口紅を50℃にて1時間放置後、室温保管品と比較して形状保持の程度を以下の基準により評価した。

判定基準：判定

変化無し：◎

僅かに変化有るが、許容内：○

僅かに変化有り、許容外：△

明らかに変化有る：×

【0024】表1の結果より、実施例1～5の口紅は、「べたつき感の無さ」、「高いつや感」、「原料臭の無さ」、「形状保持性」の全ての項目において優れていた。しかも、低温と高温で硬さの変化が少なかった。

【0025】

3. $\alpha$ -オレフィンオリゴマー (注5)	50
4. ジグリセリルイソパルミチン酸 エステルアジピン酸縮合物	10
5. リンゴ酸ジイソステアシル	10
6. トリイソステアリン酸ジグリセリル	残量
7. ビタミンA	0.1
8. 赤色202号	0.2
9. 黄色4号	0.2
10. 雲母チタン	10
11. 大豆リン脂質	0.1

【0026】 (製法)

A: 成分(1)～(7)を加熱溶解する。

B: Aに成分(8)～(11)を加え、均一に混合分散する。

C: Bを溶解し、脱泡して容器に充填する。

D: Cを冷却して、リップグロスを得た。

実施例6のリップグロスは、「べたつき感の無さ」、「高いつや感」、「原料臭の無さ」、「形状保持性」の全ての項目において優れていた。しかも、低温と高温で硬さの変化が少なかった。

【0027】

実施例7: アイクリーム

(処方)	(重量%)
1. エチレンプロピレンコポリマー (注9)	10
2. ポリエチレンワックス (融点95℃)	5
3. ワセリン	15
4. N-ラウロイル-L-グルタミン酸ジ (フィトステアシル・2-オクチルドデシル)	15
5. $\alpha$ -オレフィンオリゴマー (注4)	20
6. スクワラン	残量
7. ハチミツ	0.1
8. オリーブ油	0.1

※注9: ペトロライトEP-700 (東洋ペトロライト株式会社製)

【0028】 (製法)

A: 成分(1)～(8)を加熱溶解する。

B: Aを溶解し、脱泡して容器に充填して、アイクリームを得た。

「高いつや感」、「原料臭の無さ」、「形状保持性」の全ての項目において優れていた。しかも、低温と高温で硬さの変化が少なかった。

【0029】

実施例7のアイクリームは、「べたつき感の無さ」、

実施例8: スティックファンデーション

(処方)	(重量%)
1. ポリエチレンワックス (融点95℃)	3
2. マイクロクリスタリンワックス (融点77℃)	2
3. ワセリン	3
4. ジメチルポリシロキサン	5
5. $\alpha$ -オレフィンオリゴマー (注6)	10
6. $\alpha$ -オレフィンオリゴマー (注10)	5
7. パルミチン酸イソプロピル	残量
8. 酸化チタン	20
9. カオリン	10
10. タルク	5
11. マイカ	5
12. 無水ケイ酸	5
13. ベンガラ	0.5
14. 黄酸化鉄	3
15. 黒酸化鉄	1

※注10: PureSyn100 (Mobil社製)

## 【0030】(製法)

- A: 成分(1)～(7)を加熱溶解する。  
 B: Aに成分(8)～(11)を加え、均一に混合分散する。  
 C: Bを溶融し、脱泡して容器に充填する。  
 D: Cを冷却して、スティックファンデーションを得

実施例9: アイシャドウ

(処方)

(重量%)

1. パラフィンワックス (融点72℃)	5
2. α-オレフィンオリゴマー (注4)	20
3. ジグリセリルイソパルミチン酸 エステルアジピン酸縮合物	10
4. デカメチルペンタシクロシロキサン	20
5. トリイソステアリン酸トリメチロールプロパン	残量
6. ビタミンE	0.1
7. 群青	5
8. 黄色401号	0.2
9. 雲母チタン	20
10. 大豆リン脂質	0.1

※注10: PureSyn100 (Mobil社製)

## 【0032】(製法)

- A: 成分(1)～(6)を加熱溶解する。  
 B: Aに成分(7)～(10)を加え、均一に混合分散する。  
 C: Bを溶融し、脱泡して容器に充填する。  
 D: Cを冷却して、アイシャドウを得た。

実施例10: 頬紅

(処方)

(重量%)

1. フィッシャートロブシュワックス (融点91℃)	10
2. α-オレフィンオリゴマー (注6)	15
3. マカデミアンナッツ油	10
4. セスキオレイン酸ソルピタン	0.2
5. テトラ2-エチルヘキサン酸ペンタエリスリット	残量
6. ビタミンC	0.1
7. 赤色226号	3
8. 黄酸化鉄	0.5
9. 雲母チタン	5
10. マイカ	10
11. ナイロン末	5

## 【0034】(製法)

- A: 成分(1)～(5)を加熱溶解する。  
 B: Aに成分(6)～(11)を加え、均一に混合分散する。  
 C: Bを溶融し、脱泡して容器に充填する。  
 D: Cを冷却して、頬紅を得た。  
 実施例10の頬紅は、「べたつき感の無さ」、「高いつや感」、「原料臭の無さ」、「形状保持性」の全ての項

た。

実施例8のスティックファンデーションは、「べたつき感の無さ」、「高いつや感」、「原料臭の無さ」、「形状保持性」の全ての項目において優れていた。しかも、低温と高温で硬さの変化が少なかった。

## 【0031】

実施例9のアイシャドウは、「べたつき感の無さ」、「高いつや感」、「原料臭の無さ」、「形状保持性」の全ての項目において優れていた。しかも、低温と高温で硬さの変化が少なかった。

## 【0033】

目において優れていた。しかも、低温と高温で硬さの変化が少なかった。

## 【0035】

【発明の効果】以上詳述したように、本発明の油性固形化粧料は、べたつきが無く、高いつやを有し、形状保持性に優れ、しかも、原料臭が低減された優れた品質を有するものであった。



【手続補正書】

【提出日】平成12年6月15日(2000. 6. 15)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0020

【補正方法】変更

【補正内容】

【0020】(製法)

A:成分(1)～(11)を加熱溶解する。

B:Aに成分(12)～(14)を加え、均一に混合分散する。

C:Bを溶解し、脱泡して容器に充填する。

D:Cを冷却して、口紅を得た。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0030

【補正方法】変更

【補正内容】

【0030】(製法)

A:成分(1)～(7)及び(16)を加熱溶解する。

B:Aに成分(8)～(15)を加え、均一に混合分散する。

C:Bを溶解し、脱泡して容器に充填する。

D:Cを冷却して、スティックファンデーションを得た。

実施例8のスティックファンデーションは、「べたつき感の無さ」、「高いつや感」、「原料臭の無さ」、「形状保持性」の全ての項目において優れていた。しかも、低温と高温で硬さの変化が少なかった。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0031

【補正方法】変更

【補正内容】

【0031】

実施例9:アイシャドウ

(処方)

(重量%)

1. パラフィンワックス (融点72℃)	5
2. α-オレフィンオリゴマー (注4)	20
3. ジグリセリルイソパルミチン酸 エステルアジピン酸縮合物	10
4. デカメチルペンタシクロシロキサン	20
5. トリイソステアリン酸トリメチロールプロパン	残量
6. ビタミンE	0.1
7. 群青	5
8. 黄色401号	0.2
9. 雲母チタン	20
10. 大豆リン脂質	0.1

フロントページの続き

(51)Int. Cl. 7

識別記号

F I

ターマコード (参考)

A 6 1 K 7/031  
7/032  
7/035

A 6 1 K 7/031  
7/032  
7/035

Fターム(参考) 4C083 AA072 AA082 AA122 AB172  
AB232 AB242 AB432 AB442  
AC011 AC012 AC022 AC352  
AC372 AC392 AC422 AC442  
AC662 AC732 AC792 AC852  
AC862 AD021 AD022 AD072  
AD152 AD172 AD222 AD572  
AD622 AD642 AD662 CC13  
CC14 DD21 EE06 EE07